

## 令和6年度研究推進計画

学校名 東広島市立上黒瀬小学校

学校長名 税所 裕子

### 1 研究主題

進んで考え、深く学ぼうとする児童の育成  
～「問いを生むしかけ」を手立てとして～

### 2 研究主題設定の理由

本校は算数科において、児童に自信をもたせ、分かる喜びを感じ、自ら学ぶ児童を育成するために研究に取り組んできた。「めあて→まとめ→振り返り」が一連の流れとしてつながる「上黒瀬小学校授業モデル」を徹底することで、授業の中で、優先すべきことを意識した授業づくりを行ってきた。さらに、板書の工夫等を行うことで、児童も教師も見通しをもって授業をすることができた。45分の授業の中で個に応じた習熟問題に取り組ませることにより、学習したことを定着させつつあると考える。また、振り返りの充実を図ることで、自らの学びの過程を振り返り、授業で何が分かったのか、何に気付いたのか、どんな疑問が残されているのかを自覚することもでき始めた。児童が算数科の学習に対して、「わかった」「できた」と感じ、振り返りを意味のあるものにするに対して、一定の成果が見られた。教職員も、45分間の授業改善に取り組んだこの一年間に手ごたえを感じており、更に高みを目指したいと考え「目指したい児童の姿」を模索してきた。

そこで、本年度は、算数科の授業において、上黒瀬小学校授業モデルを基盤とし、「問いを生むしかけ」を仕組む。「既習事項」が活用できそうにない課題を提示したり、式から答えを導くのではなく、式を提示して逆向きに考えさせたりする等、児童の心を躍らすことができるような「問いを生むしかけ」を仕組むことにより、「なんでだろう?」「どうすればできるだろう?」「解決したい!」「確かめたい!」というわくわく感でいっぱい『進んで考える児童の姿』や、一人一人が多様な考えをもったり、もっと他者の考えを聞いてみたいと働きかけたりする『深く考える児童の姿』に近づけることができると考え本研究主題を設定した。

### 3 研究仮説

「問いを生むしかけ」を仕組んだ授業を展開すれば、進んで考える児童、深く学ぼうとする児童を育成することができるだろう。

## 4 研究内容

### 【「問いを生むしかけ」とは】

#### しかける場面

- ・「教材」でしかける
- ・「問題提示」でしかける
- ・「板書」でしかける
- ・「ノート」でしかける
- ・「リアクション」でしかける
- ・「見取り」からしかける
- ・「発表・話し合い」でしかける
- ・「まとめ・振り返り」でしかける

#### しかける方法

- ・解けなくする
- ・場面を曖昧にする
- ・〇〇づくりゲームにする
- ・分類ゲームにする
- ・一瞬だけ見せる
- ・使えなくする
- ・情報を多くする
- ・部分を隠す
- ・基準を隠す・変える
- ・結果だけ見せる
- ・〇番目を問う
- ・式からスタートする
- ・条件をずらす
- ・目的をずらす

### 【進んで学ぶ姿とは】

#### しかけによって進んで取り組もうとする姿

- ・なんでだろう？
- ・どうすればできるだろう？
- ・解決したい！
- ・確かめたい！

### 【深く学ぼうとする姿とは】

#### 算数の学びを通してはぐくみたい力を姿と捉える。

- ア 他者の考えを式や図、言葉などから読み取ろうとする
- イ 演繹的・帰納的・類推的に考えようとする
- ウ 算数の技能を身に付け、表現しようとする
- エ 共通点や相違点に着目して多様な方法で考えようとする
- オ 情報を選んだり集めたり、分類・整理、分析、活用したりしようとする
- カ 目的に合わせて、場面や条件を変えて考えようとする
- キ 構成要素や性質に着目して考えようとする
- ク 既習の概念を拡張させて、見方・考え方を発展させようとする
- ケ 生活中にある算数を見つけたり、算数の美しさに気付いたりする

### 【上小授業モデルの発展としての振り返り～目的をもたせた振り返り～】

#### 基本

- ① 自分の問いに対して  
振り返らせたいねらいに応じて、②③いずれか又は両方振り返らせる
- ② 他者の考えとの比較について
- ③ 次にやってみたいことについて

## 5 検証計画

検証の視点	実施時期	検証の指標	達成目標
「問いを生むしかけ」によって、児童が進んで考えることができたか。	6月 12月	児童アンケート  教師アンケート	肯定的評価 85%以上  評価値3.2以上
「問いを生むしかけ」によって、児童が深く考えることができたか。	6月 12月	児童アンケート  教師アンケート  児童の振り返りの記述	肯定的評価 85%以上  評価値3.2以上